

旅紙

Tabisi

荻野 雄大



和紙を使った、旅の思い出の楽しみ方

旅行先で気に入った自然物を拾ってきても、帰宅した際に置き場所に困り、捨ててしまう人がいる。私にはその行動が思い出を捨ててしまっているように感じた。そこで、和紙の「なんでも漉き込める」という性質を活かし、拾ってきた自然物を捨てずに済み、いつまでも思い出を留められるような、写真とは違う旅行の楽しみ方を提案する。

Enjoying Travel Memories by Using Traditional Japanese Paper

Some people pick up a plant or other natural object they found on a trip, but when they get home, they have trouble finding a place to put it and eventually throw it away. To me, this behavior feels like throwing memories away. Therefore, I propose a way to enjoy a trip that is different from photographs, in which you do not have to discard the gifts of nature that you picked up and can keep the memories forever.



1/和紙工房で手漉き和紙のワークショップを体験してもらう。



2/和紙工房でキットを貰い、旅行先で好きな自然物を拾う。



3/ 拾ってきた自然物をキットの和紙の上に載せる。



4/ キットに載せた自然物の上に和紙をかける。



5/ キットから和紙を外し、アクリル板の上にのせ、乾燥させる。



6/ アクリル板の上で乾燥させたら、枠の中にはめ込む。



- 1 朝〜夕方と夜で使いわける
朝〜夜にかけて、自然光やライトボックスなどのLED ライトによる光の透過を見ることにより、その自然物を拾った日を思い出すきっかけとなる。
- 2 和紙ならではの表情の変化
和紙に漉き込むことで自然物に和紙の繊維が絡み、和紙に埋まっているところと、埋まっていないところの表情の差が出る。

